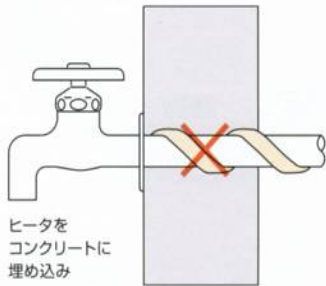


水道凍結防止帯の施工上の注意点

施工場所について

次のような場所や配管へは取り付けないでください。

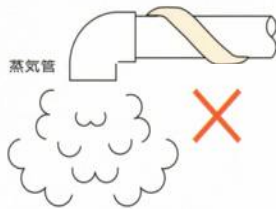
〈保守点検のできない場所〉



ヒータを
コンクリートに
埋め込み

ヒータ故障時の交換などができません。

〈100℃以上となる高温部〉



ヒータが溶けて火災の原因となります。

〈給水・給湯管以外の配管〉



ガス管
水のない排水管
引火性・可燃性
液の配管など

異常動作をするおそれがあります。

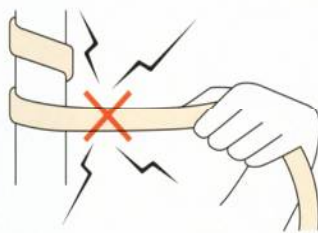
ヒータの取り扱い

ヒータにキズを付けたり、強い力で引っ張らないでください。

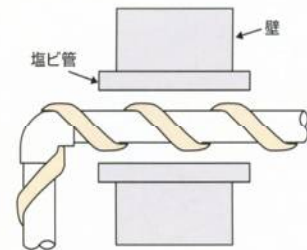


注意
保温テープを
カットする時
ヒータも
カットしやすい。

発熱線が断線したり、漏電するおそれがあります。



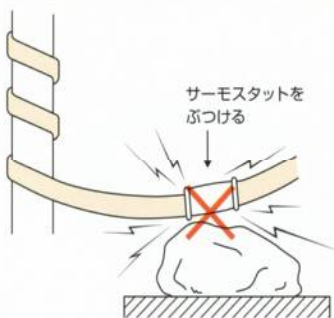
強い力で引っ張ると、発熱線が断線するおそれがあります。



壁貫通部分は、塩ビ管などでヒータを保護してください。

サーモスタット部の取り扱い

サーモスタット部は、ていねいに扱ってください。



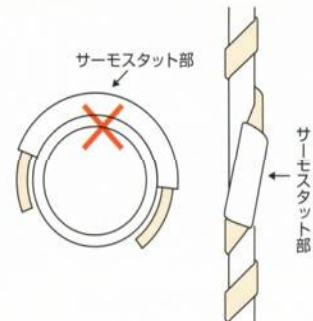
サーモスタットを
ぶつける

動作温度が狂う原因となります。



サーモスタットを
強く押す

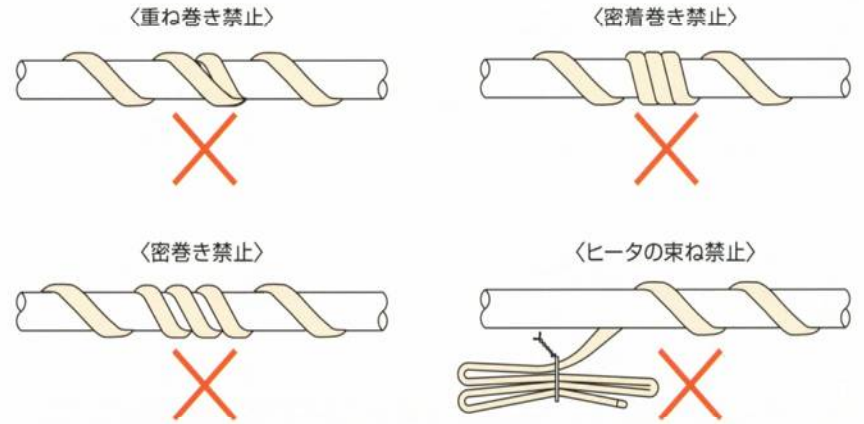
動作温度が狂う原因となります。



配管に沿わせる程度で、無理に巻き付けしないでください。

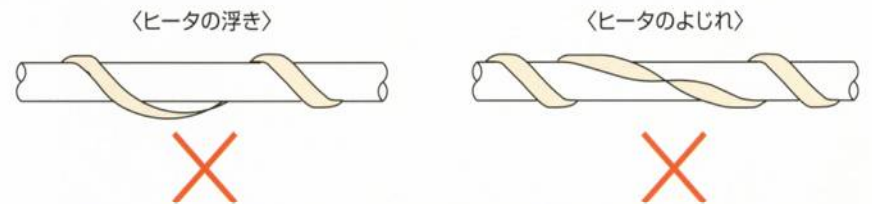
次のような施工は、火災や漏電、異常過熱の原因となります。

●ヒータの束ね・重ね巻き・密着巻き・密巻き



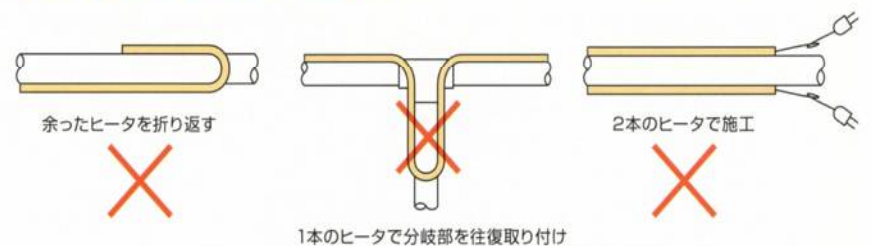
ヒータは配管の長さにあったものを使用して、凍結防止する配管に均等に巻き付けてください。

●ヒータの浮きやよじれ

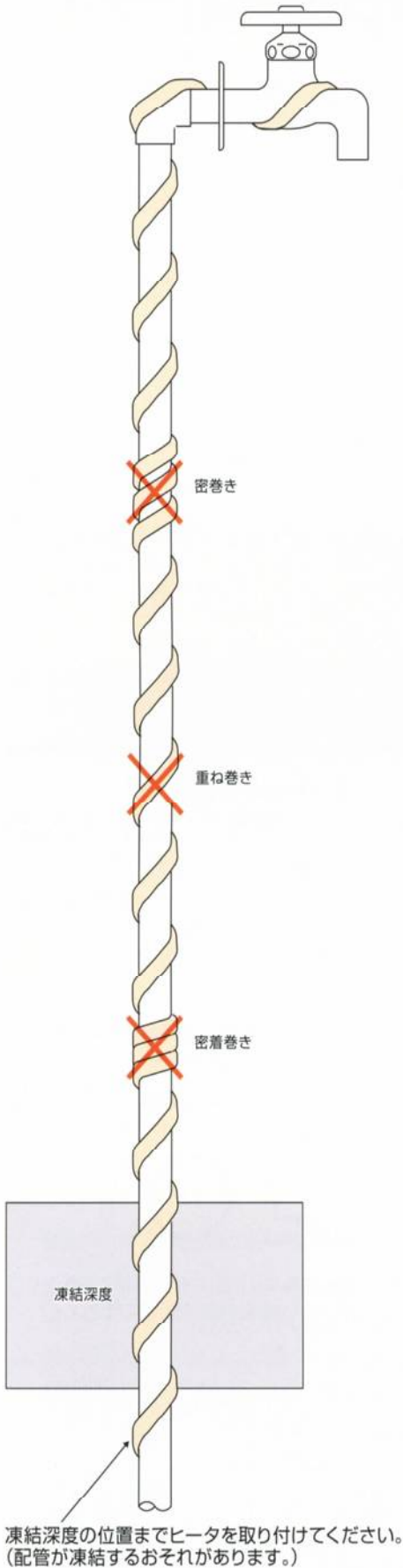


ヒータが浮いたりよじれたりした部分が異常過熱するおそれがありますので、保温材の取り付け前にもう一度確認してください。

●二重施工、2本のヒータを施工



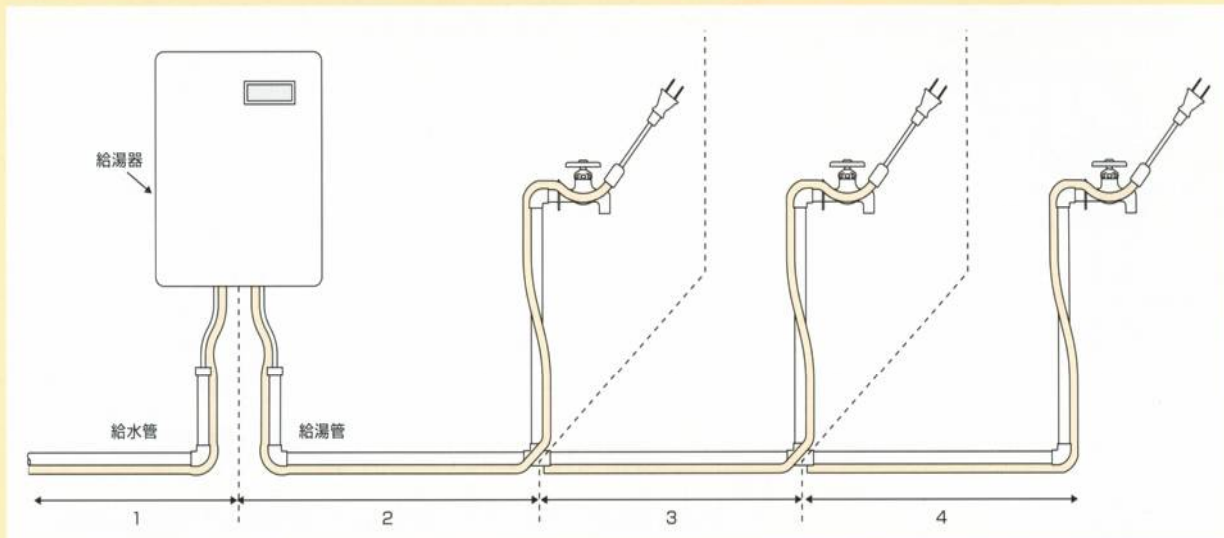
余ったヒータを折り返して二重施工したり、2本のヒータで施工したりしないでください。



凍結深度の位置までヒータを取り付けてください。
(配管が凍結するおそれがあります。)

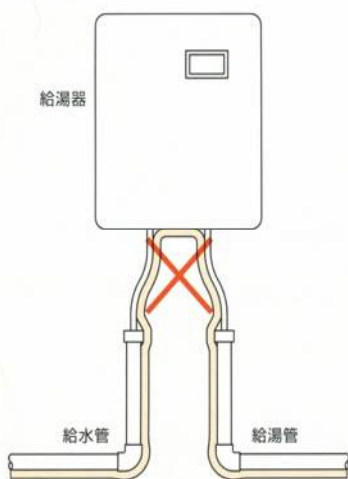
水道凍結防止帯の施工上の注意点

給湯器周りの配管への取り付け

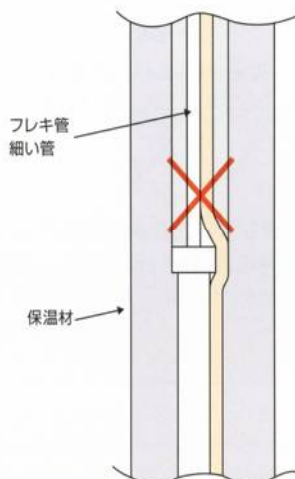


ヒータは、給湯口ごとに取り付けてください。上記の図の場合は4本のヒータが必要となります。
(1本のヒータで施工すると、配管が凍結するおそれがあります。)

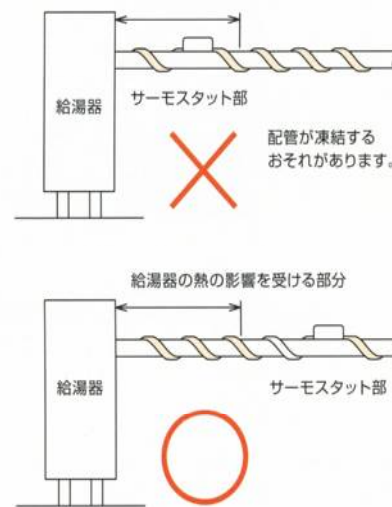
次のような施工は、配管が凍結したり、ヒータが異常過熱したりする原因となります。



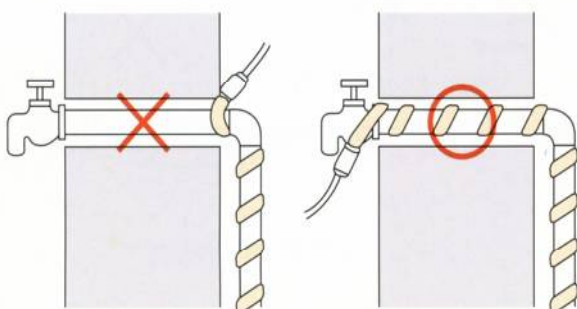
給水管と給湯配管を、1本のヒータで施工しないでください。



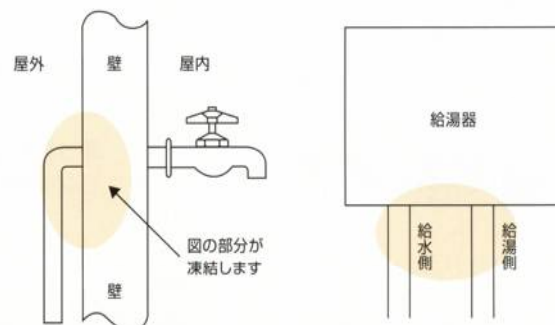
フレキ管や細い配管には、厚い保温材を使用しないでください。



サーモスタット部は、他の熱源の影響を受けない場所に取り付けてください。



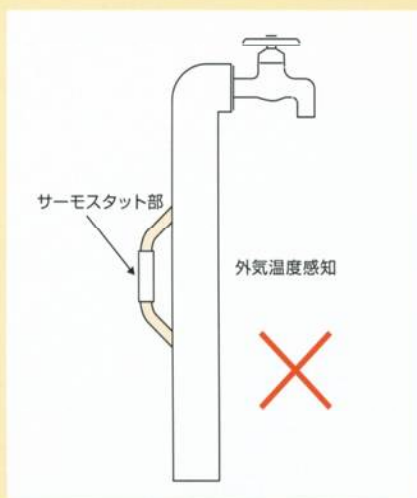
水道管が壁を貫通している場合、巻きつけないと、極寒地では凍結するおそれがあります。



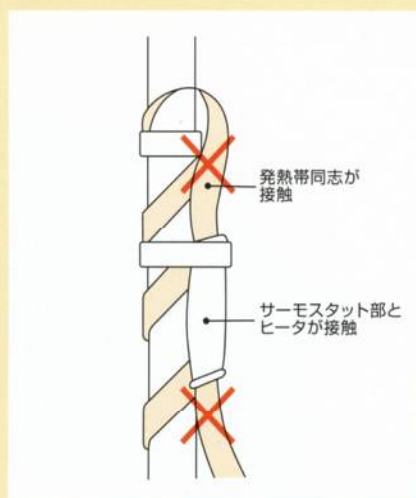
壁ぎわや、給湯器の近くも凍りやすい部分ですので、配管が露出しないようにしてください。

サーモスタット部の取り付け

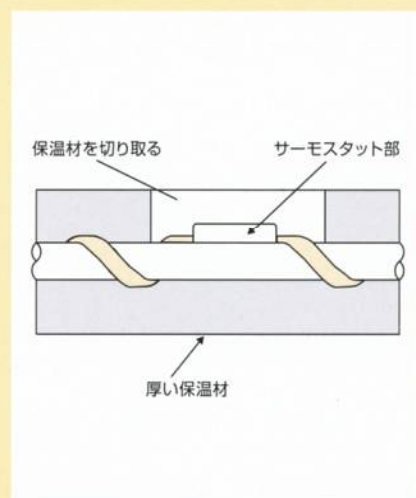
サーモスタット部がヒータに接触しないようにして、配管に取り付けてください。



蛇口を開けた時にお湯が出る原因となります。

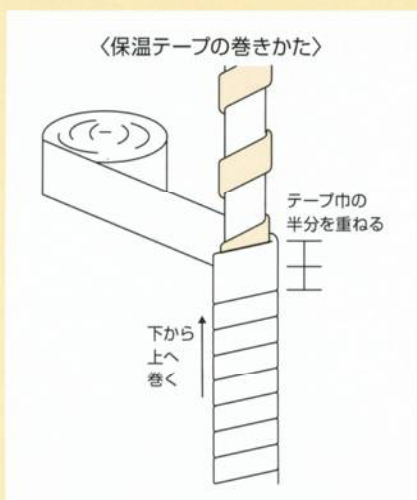


サーモスタット部がヒータに接触しないようにしてください。



保温材が厚い場合は、保温材を切り取ってください。

その他の注意事項



保温テープの隙間から雨水が入りにくくなります。



ヒータの文字が表面になるように取り付けてください。

樹脂管、ライニング鋼管への取り付け

- ライニング鋼管の中の水を抜いた状態で通电すると、配管を傷めることがあります。
- 架橋ポリエチレン管へは、自己温度制御型（SXタイプ、SXPタイプ）をご使用ください。
- SHタイプなど、ヒータの材質が軟質塩ビの製品を樹脂管（塩ビ管や架橋ポリエチレン管など）に使用すると、配管を傷める原因となります。
(ヒータの被覆材に含まれる成分が、樹脂管に悪影響を与えるおそれがあります。)

保守点検

- 凍結シーズン前には、ヒータや差込プラグの破損、保温材の破れなど異常がないか点検してください。
- 長年使用したヒータを配管から取り外して、再使用（巻き直し）をしないでください。
取り外した際に、ヒータが断線するおそれがあります。
- コンセントの差し忘れによる凍結事故を防ぐためにも、凍結シーズンになりましたら、電源プラグがコンセントに差し込まれていることを確認してください。
- 使用条件などにより異なりますが、5年を目安にヒータを交換することをおすすめします。